

## 地理学教室便り (2018年度)

本誌は地理学教室の教員とOGの編集委員の協力により、専任教員、大学院生、卒論生、大巡検参加者、OGによる論文・記事で構成されています。それぞれの地理学会において女性の参加者が少ない状況を見ると、本誌のように多数の女性執筆者が地理学論文を継続的に発表することは、男女雇用機会均等法が成立した後の今日においても、貴重な成果発表の場となっていると考えます。本誌のバックナンバーは、1954年の第1号から最新号まで、すべて本学WEBサイトの教育コレクション「TeaPot」で読むことができます（「図書館」→「お茶の水女子大学の学術雑誌」）。

2018年度の地理学教室の構成員を紹介します。今年度も教員構成において昨年度からの変更はありません。専任教員は、学部地理学コースに水野（主任）、宮澤、長谷川の3名が、グローバル文化学環に熊谷、倉光が在籍しています。大学院博士前期課程ジェンダー社会科学専攻地理環境学コースでは、専任教員として熊谷、水野、宮澤（代表）、長谷川、倉光の5名が、そして兼任教員として開発・ジェンダー論コースの小林教授（国際関係論）、荒木准教授（開発研究、アフリカ地域研究）が教育・研究指導を担当しています。これら7名の教員は全員、大学院博士後期課程ではジェンダー学際研究専攻の教員です。地理学教室事務室のアカデミック・アシスタント(AA)にも変更はなく、古野、福田が担当しました。お茶の水地理学会事務局も、引き続き東野が担当しています。要するに、教員およびAAの顔ぶれに変更はありませんでした。

2018年度の非常勤講師の先生方は、以下の通りです。学部のコア科目・LA(リベラルアーツ)には、鈴木智恵子、吉岡由希子、伊藤修一（以上、情報処理演習）の各先生方、地理学コースの専門科目では、小堀昇（地図学）、齋藤元子（地理学英書講読）、米家志乃布、植木岳雪、菊地俊夫（以上、地理環境学演習Ⅰ～Ⅲ）、伊藤修一、目代邦康、今野絵奈、植木岳雪（以上、地理学フィールドワークB）、玉谷直子、中村光貴（以上、地理歴史科教育法）、渡邊智紀、木村真冬、寺本誠（以上、社会科教育法）大学院では吉田道代（環境文化論演習）の各先生に担当していただきました。講師の先生方には、地理学教室のカリキュラムを充実したものにしてくださり、この場を借りてお礼申し上げます。

学部地理学コースの学生は、2年生が11名、3年生が

12名、4年生が13名でした。人文科学科の哲学・倫理・美術史、比較歴史学、グローバル文化学環という、魅力的なコースに囲まれている中で、地理学コースは授業、学生指導、設備、お茶の水地理学会、身近な先輩たち、就職状況などから一定の人気を勝ち得たものと考えています。大巡検や基礎演習は、多人数でも少人数でも授業運営が難しく、この点、ここ数年の学生数の動向は、地理学コースの安定したカリキュラムを実行するのに好都合の状況です。本学の専門教育の特徴となりつつある複数プログラム制で、地理環境学副プログラム（他分野のプログラムを主専攻としつつも、副専攻として地理学のプログラムを選ぶ）の学生が、3年生、4年生ともに6名ずつとなっています。また本学がカリキュラム上、短期、長期の海外留学を提携校に行きやすくしていることもあり、本コースでは1名がチェコの提携校に半年間留学しました。長谷川の授業から派生した、いわゆる「地理×女子」の活動は、在学生有志を中心に今年もさまざまな展開を大学外にも広げ、多くの著作、発表などが行われました。今年度卒業した12名の進路は、公務員（2名）、民間企業（5名）、進学（1名）、その他（4名）でした。

大学院の学生は、博士前期・後期あわせて16名でした。博士前期課程では5名が新たに入学し、博士後期課程では入学者はありませんでした。前期課程では一定の入学者を確保できていますが、入学者のさらなる増加につながることを期待して今年度より、学士・修士一貫教育トラックという全学的な取組みを地理学コースも採用しました。これは、学部の学生が3、4年次に博士前期課程科目を先行履修することによって、大学院進学後の時間の使い方を柔軟にできる仕組みです。一方、後期課程の入学者がここ数年、いないことは、今後の課題と言えます。今年度博士前期課程を修了した5名の進路は、民間企業（3名）、帰国（1名）、その他（1名）でした。また久島桃代さんは、引き続き、本学大学院の研究者として研究活動を行っています。なお専任教員それぞれが科学研究費を代表・分担で獲得しており、その内容については本学公式HPの「学部・大学院」→「研究者情報」をご覧ください。

最後に、2018年度に実施した巡検の一覧と、教室構成員が公表した主な研究成果一覧を掲載します。8月に実施した伊賀名張巡検の内容については、本誌の巡検報告

をご覧ください。構成員一同、地理学の教育・研究にこれからも着実に努力していく所存です。本誌のさらなる愛読と、これからもご指導・ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

(2018年度学部地理学コース主任 水野 勲)

### 2018年度実施の巡検 (一覧)

- 4月 お茶の水 (水野)  
一日巡検の事前授業 (水野)
- 5月 三浦半島城ヶ島 (目代\*)  
吉祥寺 (水野)
- 6月 都市近郊農業：農畜産物から葉山ブランドの形成を考える (今野\*)
- 8月 伊賀名張巡検 (宮澤)
- 9月 夢の島の地形と地図、海図の学習 (長谷川)  
和光市～成増の湧水・自然環境保全 (長谷川)  
地図製作の現場－株式会社武揚堂工場訪問 (宮澤, 小堀)
- 10月 千葉市外縁の住宅地のローカリティ (伊藤\*)
- 11月 六本木・麻布 (水野)
- 12月 環境エコプロダクツ2018から、環境便乗社会を見る目を養う (長谷川)
- 2月 国土地理院のしごとを知る (長谷川)  
佐倉市成熟住宅地の持続可能性 (伊藤\*)
- 3月 武蔵野台地の水 (植木\*)  
木更津市の都市再編 (伊藤\*)
- (\*は、非常勤講師による巡検)

### 2018年度に公表した主な研究成果 (一覧)

執筆物

- 尾形希莉子・長谷川直子 2018. 『地理女子が教えるご当地グルメの地理学』ベレ出版。
- 小川杏子 2018. 「ゲジェコンドウ」における「居住権」運動とその背景－トルコ共和国アンカラ市を事例に。アジア太平洋研究レビュー 15: 47-64.
- 木村 翠 2018. 「学生から見た地理学」開催。地理 63(11): 4-5.
- 久島桃代 2018. 2017年度 (2017年11月～2018年10月) 人文地理学会若手研究者国際会議派遣助成発表報告書。『人文地理』70: 534.
- 熊谷圭知 2018. 日本統治がパラオにもたらしたもの－二人の女性の語りから。地理63(10): 86-93.
- 熊谷圭知 2019. 「南洋」の新しい地誌を描くために。地理64(4): 82-89.
- 熊谷圭知 2019. 『パプアニューギニアの「場所」の物語

- －動態地誌とフィールドワーク』九州大学出版会。
- 倉光ミナ子 2018. 日本におけるサモア人妻たちの子育て。お茶の水地理 57: 133-136.
- 倉光ミナ子 2019. サモアにおける「ジェンダーと開発」：その歴史の変遷と特徴。人文科学研究 15: 77-88.
- 竹村公太郎・山野井 徹・長谷川直子 2018. トークセッション だから地理・地質は面白い 身近な地域の魅力を再発見しよう。公益財団法人山形県生涯学習文化財団編 遊学館ブックス『山形の生い立ち』. 27-62.
- 長尾悠里 2018. 埼玉県秩父市大滝地区における学校統合と校区への諦観との関係－小学校の消失過程に関する一考察。人文地理 70: 233-251.
- 長谷川直子・井田仁康・宇根 寛・田代 博・田村賢哉・宮路秀作・目代邦康 2018. 『今こそ学ぼう地理の基本』(編著) 山川出版社。
- 長谷川直子 2018. 『発見しよう! つくってみよう! まちの地図』(監修) 第1巻～第2巻 河出書房新社。
- 長谷川直子 2018. 地理学のアウトリーチの手段としてのご当地グルメ絵葉書の効果。お茶の水地理57: 49-54.
- 長谷川直子 2018. 座談会 歴史教員からみた地理－「地理総合」必修へ向けて。歴史と地理 地理の研究 197: 1-27.
- 長谷川直子 2019. 『発見しよう! つくってみよう! まちの地図』(監修) 第3巻 河出書房新社。
- 長谷川直子・植木岳雪・早川裕弐 2018. 特集「地理学のアウトリーチ」によせて。E-journal GEO 13(1): 156-157.
- 長谷川直子・横山俊一 2018. 学生主体の地理学のアウトリーチ。E-journal GEO 13(1): 202-220.
- 長谷川直子・吉田瑠夏・作田龍昭・上田昌文 2018. 地理的音声ガイドの作成。地理63(7): 1-6.
- 畠山輝雄・中村 努・宮澤 仁 2018. 地域包括ケアシステムの圏域構造とローカル・ガバナンス。E-journal GEO 13: 486-510.
- 宮澤 仁 2019. 教育. 都市内集住地(1). 石川義孝編『地図で見る日本の外国人 改訂版』ナカニシヤ出版, 46-47, 54-55.
- 口頭発表・講演・ポスターセッション
- 大垣志織 2019. CSA (Community Supported Agriculture) の“C”の特性－東京大都市圏3地域のCSA農家を対象に－. 日本地理教育学会全国地理学専攻学生卒業論文発表大会 (早稲田大学) .
- 尾形希莉子・長谷川直子 2018. 地理学のアウトリーチ

- の手段としてのご当地グルメ。G空間expo日本地理学会主催シンポジウム「地理学で読み解く食の愉しみー川上から川下まで」(日本科学未来館)。
- 小川杏子 2018. 高校内居場所カフェ実践とは何か：田奈高校“ぴっかりカフェ”が目指すもの。北海道大学教育学研究院教育行政研究室・科研費「拡散・拡張する公教育と教育機会保障に関する国際比較研究」研究会(北海道大学)。
- 木村 翠 2018. 『地理×女子』の活動から学んだアウトリーチの手法について。地球惑星科学連合大会(幕張メッセ)。
- 木村 翠・伊藤智樹・大竹あすか・鹿野健人・小林 護・重永 瞬・田代滉介 2018. 日本の大学における地理教育の現状についての予察的研究。日本地理学会秋季学術大会(和歌山大学)。
- 久島桃代 2018. 農村に移住する女性と身体化される場所ー福島県昭和村「織姫」の語りからー。平成30年度第4回昭和学講座(昭和村公民館)。
- Kushima, M. 2018. Embodied memories and places: Female migrant narratives about karamushi in Showamura, Fukushima prefecture. The 2018 IGU Regional Conference (Quebec convention center).
- 倉光ミナ子 2018. 国際結婚/インターマリッジとホームに関する予備的考察ーサモア人移民女性の経験に着目してー。人文地理学会大会(奈良大学)。
- 佐藤香寿実 2018. 地域特性を活かしたムスリムのための場所作りーフランス, ストラスブールにおけるムスリム公共墓地を事例に一。人文地理学会大会(奈良大学)
- 多賀麻里子 2019. 成熟した専門店街・神田神保町における古書店を中心とした回遊行動について。日本地理教育学会全国地理学専攻学生卒論発表大会(早稲田大学)。
- 中川優希・長谷川直子 2018. 一般書にみる地理学のアウトリーチ。2018年度日本地理学会春季学術大会(専修大学)。
- 長谷川直子 2018. 日本地理学会地理学のアウトリーチ研究グループの活動。地球惑星科学連合大会(幕張メッセ)。
- 長谷川直子 2018. 地理学のアウトリーチのヒントーシンポジウム趣旨説明ー。2018年度日本地理学会春季学術大会(専修大学)。
- 宮澤 仁 2018. 地域に見える化と地理空間解析ー健康・医療・福祉へのGISの応用。シニア社会学会第110回社会保障研究会(日本労働者協同組合連合会)。
- 宮澤 仁・多田佳乃子 2019. 妊娠・出産・育児のための地域包括ケアシステムー埼玉県和光市・山梨県北杜市の事例からー。日本地理学会春季学術大会シンポジウム(専修大学)。
- 宮澤 仁・畠山輝雄 2019. 地域包括ケアシステムの空間的・地域的バリエーション。日本地理学会春季学術大会シンポジウム(専修大学)。
- 由井義通・宮澤 仁・若林芳樹・Thang, L. L. 2018. 地域包括ケアシステムを導入した住宅団地の再生。日本都市学会第65回大会(九州産業大学)。